

道の駅における情報ニーズと情報提供端末のユーザーインターフェイスについて

(独)土木研究所 寒地土木研究所 地域景観ユニット 正会員 ○松島 哲郎
 同上 正会員 松田 泰明
 同上 正会員 加治屋安彦

1. はじめに

北海道の道の駅は、現在 100 駅(平成 19 年 3 月現在)が登録¹⁾され、北海道におけるドライブ観光の重要な施設であり、大変人気の施設となっている。これら道の駅では、道の駅情報提供端末(以下:情報端末)による情報提供のほか、様々な媒体での情報が発信されている。そこで、本稿では「道の駅」での適切な情報提供を行うため、これまでの調査に加え、道の駅での情報ニーズについてのアンケート調査などを踏まえ、情報端末での提供内容を具体的に検討した。

2. 道の駅における利用実態

上村ら²⁾の研究では、道の駅の利用者の移動目的について調査した結果(図 1)、観光・レクリエーションが約 70%と最も多く、次いで仕事(22%)であった。また、利用者は若年層から高齢者層まで幅広く、滞在時間は 15~30 分程度であった。

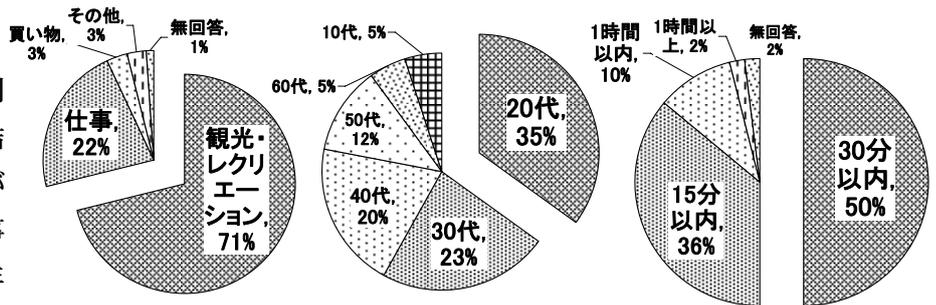


図 1 道の駅の利用状況と滞在時間及び年齢層²⁾

さらに、利用目的の詳細を調査した結果では、トイレや売店、休憩・飲食施設、自動販売機の利用を回答した数が多く、道の駅に必要な機能のひとつである休憩施設としては機能している。一方、道路情報や観光情報の入手という回答数は少なく、現状では情報入手拠点としては十分に利用されていない。

従って、これらを総括すると主な道の駅利用者層の特徴は以下の 4 点である。

- 1) 周辺の土地感がなく地理不案内なドライバー、
- 2) 比較的、広域的な移動を行うドライバー、
- 3) 高齢者を含む幅広い年齢層、
- 4) 短時間の小休憩的な道の駅利用

3. 情報ニーズに関するアンケート調査

道の駅での情報ニーズや満足度等を把握するため、北海道道路情報総合案内サイト「北の道ナビ(<http://northern-road.jp/navi/>)」のホームページ上で、アンケート調査を行った。調査概要及び回答者の主な属性は、表 1 に示す通りである。

道の駅での情報入手の手段では、「ポスターや掲示版」「パンフレット」「道の駅の職員に聞く」など、様々な情報提供媒体から情報を得ている(図 2)。

このため、各種媒体の特徴などを明確にし、道の駅情報提供端末も含め、

表 1 アンケート概要及び回答者属性

第7回秋期アンケート	
アンケート実施方法	「北の道ナビ」HP上で実施
アンケート開始日	平成17年12月15日
アンケート終了日	平成18年01月15日
アンケート実施日数	31日間
アンケート設問数	全27問
有効回答数	415通
性別	男性88% 女性12%
住居最頻値	北海道内在住者82%
運転頻度最頻値	ほぼ毎日 66%
運転経験年数最頻値	21年~30年 33%
年齢構成最頻値	30代 34%

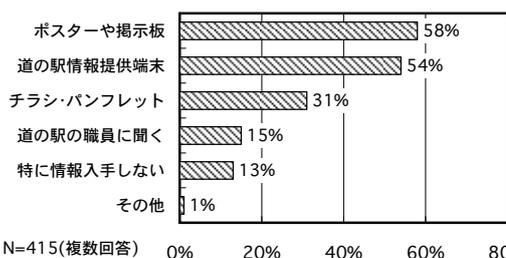


図 2 道の駅での情報入手の手段

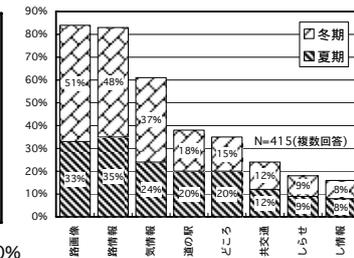


図 3 充実してほしい情報内容の要望

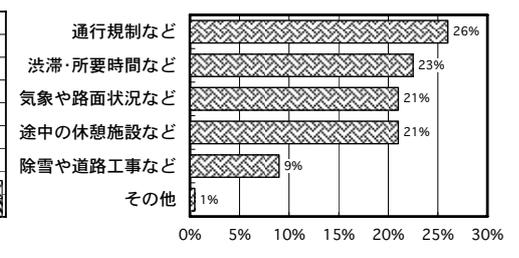


図 4 移動中に確認する必要性が高い情報³⁾

キーワード 道の駅, 情報提供, RWML, RSS, 情報端末

連絡先 〒062-8602 札幌市豊平区平岸 1 条 3 丁目 1-34 独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 TEL:011-841-1746

これら各媒体において提供する情報を分類して役割分担を行うことにより、より効果的な情報発信が可能と推測される。また、充実してほしい情報内容(図3)は、冬期だけでなく夏期においても道路情報・道路画像・気象情報の拡充が上位3位となり、これらの情報ニーズが高い。

さらに、加治屋ら³⁾の研究からも、「道の駅において提供すべき情報は、特に移動中の走行環境に関するニーズに着目する必要があると」示されている(図4)。

4. 道の駅情報提供端末での具体的な提供内容の提案

これら調査結果を踏まえ、情報端末の特長を活かした情報提供内容の作成方針を以下に整理した。

- 道路・気象情報や地域の道案内に役立つ情報を主体として、シンプル且つわかりやすく情報提供
- 当該道の駅利用者の行動範囲に即した情報提供および経路案内機能の充実
- 短時間で簡単に必要情報が閲覧できようユーザーインターフェイスづくり
- わかりやすいメニュー構成、タッチパネルによる操作性を配慮したサイトづくり
- 様々な情報発信媒体との役割分担および連携各種情報発信媒体との役割を明確化したうえで相互連携以上を基本に、具体的な提供内容の検討作業を行った。

図5は、提案した情報端末のトップページ案であるが、一目で提供する情報がわかるよう配慮した。その他、気象条件が厳しく利用者からのニーズも高い峠情報ページや、目的地までのルート案内を行うページなどについても提案した。

5. おわりに

これらの情報提供は、平成19年の春より全道の各道の駅において、日本語だけではなく英語、韓国語、中国語(簡体字・繁体字)でサービスを開始しており⁴⁾、今後これらの評価検証を行っていきたい。

最後に、今回のアンケート調査にご協力いただいた道路利用者の方々および、各種調査にご協力いただきました、北海道地区道の駅連絡会の方々に感謝の意を表するものである。



図5 道の駅情報提供端末のトップページ

参考文献

- 1) 北の道の駅Webサイト, 北海道地区「道の駅」連絡会 <http://www.hokkaido-michinoeki.jp/>
- 2) 上村達也・加治屋安彦・山際祐司: 災害時を考慮した道路情報提供と道の駅の活用について, 平成13年7月. 北海道開発土木研究所月報 No. 578 <http://www2.ceri.go.jp/jpn/pdf/b-gp-200107-jouhou.pdf>
- 3) 加治屋安彦・上村達也・石塚健司: 「道の駅」の情報化に関する研究(第1報), 平成12年2月. 土木学会北海道支部 論文報告集 第56号 PP524-PP527
- 4) 北海道開発局長定例記者会見資料「道の駅」における提供情報のリニューアル, 平成19年3月. 北海道開発局 <http://www.hkd.mlit.go.jp/kyokutyou/h19/0313/kyokutyou.html#3>